

社会福祉法人白寿会

平成30年度事業報告書

【法人理念】

ともに暮らし、ともに喜び

ともに支え、ともに生き

ともに高め、ともに歩む

【基本方針】

1、ご利用者がその人らしく過ごせるよう心に寄り添い、喜びを分かち合います。

1、地域と力を合わせ、住みよいまちづくりに貢献します。

1、職員が互いに高め合い、いきいきと働ける職場をつくりまします。

平成30年4月に実施された介護保険制度改正においては、介護報酬は全体平均で+0.54%の微増となり、在宅福祉に重点を置く地域包括支援システムの一層の推進、自立支援・重度化防止を目指すリハビリの強化、担い手不足に対処するための多様な人材、ロボットの活用による生産性の向上が謳われるとともに、高齢・障がい・子育て・生活困窮などあらゆる福祉課題を「我が事・丸ごと」支えあう、地域共生社会という概念が提唱された。

当法人は、これらの情勢を踏まえ、平成28年度から着手した5か年経営計画を昨年度修正し、この計画に沿い、法人経営、ご利用者支援、地域貢献及び職場づくりの4分野を柱に事業を実施してきた。

なお、収支状況について、収入においては入居稼働率の改善に着目し、介護報酬の確保を積極的に履行し収入増につなげたが、法人の介護サービス向上につながる組織体制強化のための人材確保により、人件費を中心としたコスト上昇の影響により、法人の単年度黒字額は減少した。

なお施設形態別では、特別養護老人ホームは、全体として稼働率の改善が奏功し、人件費のコスト増はあったものの、若干の黒字額増となり、一方、デイサービスについては、職員構成の変動による人件費の増加もあり、黒字額は縮小した。

法人全体

(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額
平成30年度	829,733 (787,836)	823,655 (781,752)	6,078 (6,084)
平成29年度	765,139	754,040	11,099
平成28年度	748,583	720,078	28,505
平成27年度	665,831	656,834	8,997
平成26年度	833,873	872,323	△38,450

特別養護老人ホーム（本館・別館・ほのぼのいぶき）

(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額	稼働率(%)
平成30年度	781,896 (739,998)	776,243 (734,279)	5,653 (5,719)	97.1
平成29年度	719,193	714,405	4,788	95.6
平成28年度	715,461	685,904	29,557	97.4
平成27年度	634,488	627,697	6,791	98.7
平成26年度	539,704	580,616	△40,912	97.2

デイサービス（ほかほかいぶき）

(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額	稼働率(%)
平成30年度	31,504	28,259	3,245	97.4
平成29年度	34,087	23,030	11,057	96.9
平成28年度	21,481	21,466	15	88.0
平成27年度	21,907	19,952	1,955	94.6
平成26年度	19,177	22,983	△3,806	75.2

※ () 内は、特別増減の部を除く経常活動による金額を記載している。

※ 特別養護老人ホームとデイサービスの他に、本部拠点区分、居宅サービス区分、在支サービス区分があるため、特別養護老人ホームとデイサービスの総収入額、総支出額、収支差額のそれぞれを合算した金額は法人全体の金額と一致しない。

1 将来を展望した法人経営の推進

(1)介護保険制度改正への対応

① 地域共生社会への対応

- ・ 地域共生への第一歩となる「おもちゃ図書館」を開設し、毎月1回開催して、幼児・子育てママと施設入居者とのコミュニケーションの場づくりを進めた。

② 自立支援の推進

- ・ 機能訓練指導員2名、管理栄養士1名の採用で体制を強化し、機能訓練指導、栄養マネジメント加算等を確保し、特養ご入居者リハビリ機能の強化を図った。
- ・ デイサービスでは、外部機関の協力を受け、バーセルインデックスに基づくリハビリを進めた。

(2)法人経営体質の強化

① 法人経営

・ 理事会、評議員会の開催

開催年月日	審議内容
第1回 理事会 30年6月4日	「平成29年度社会福祉法人白寿会事業報告について」 他5議案、報告2件
第1回評議員会 30年6月25日	「平成29年度社会福祉法人白寿会事業報告について」 他1議案、報告1件
第2回 理事会 30年11月5日	「評議員選任・解任委員の選任について」 他8議案、報告1件
第3回 理事会 31年1月28日	「社会福祉法人白寿会処務規程の一部改正について」 他3議案、報告1件
第4回 理事会 31年3月25日	「2019年度社会福祉法人白寿会事業計画について」 他13議案

・ 監事監査

開催年月日	出席監事
30年5月15日	溝口 孝 山田 光義

・いぶき苑地域支援会議

回	開催日	主な検討事項
1	平成30年4月25日	平成30年度事業計画について 他
2	平成30年6月15日	平成29年度事業報告について 他
3	平成30年8月17日	ふれあいタリイピア出展について 他
4	平成30年10月12日	いぶき苑本館改修工事について 他
5	平成30年12月21日	今後の活動への提案について他
6	平成31年2月15日	平成31年度活動及び委員選出について 他

② 職員体制の強化

- ・ 介護、看護、機能訓練、生活相談、栄養管理、事務等各職種において、適正配置に向けた採用を進めた。
- ・ なお、介護職員については、新たなデイサービス開所に向けた要員及び離職者の補完職員の確保のため、多様な手段を講じ進めた。しかしながら、構造的な介護人材不足の影響を受け、介護職員全体としては増員となったが、シフトに対応できる職員の不足が生じることとなり、シフト調整が課題となっている。

ア 職種別職員の状況

(単位：人)

職員区分	H30.3.31 現在	H30.4.1 入職	H30年度 離職	H30年度 中途 入職	H30年度 増減	H31.3.31 現在	H31.4.1 入職	H31.4.1 現在
○職員総数	134	6	△26	27	7	141	7	148
・正職員	84	5	△11	7	1	85	4	89
介護職員	62	2	△9	2	△5	57	3	60
看護職員	5	0	0	1	1	6	0	6
機能訓練指導員	0	2	0	0	2	2	0	2
生活相談員	2	0	0	1	1	3	0	3
その他職種	15	1	△2	3	2	17	1	18
・その他職員	50	1	△15	20	6	56	3	59
介護職員	18	0	△5	8	3	21	1	22
入浴介助	1	0	0	4	4	5	1	6
介護アシスタント	0	0	0	1	1	1	0	1
看護職員	7	1	△3	3	1	8	0	8
その他職種	24	0	△7	4	△3	21	1	22

イ 職員離職率

- ① 正職員 11.2%（平成29年度：7.1%）
（平成30年4月1日現在 89人 離職者 10人）
- ② 法人職員全体 11.4%（平成29年度：5.8%）
（平成30年4月1日現在 140人 離職者 16人）

※ 離職率の算定にあたっては、定年等による離職者を除いている。

② 外国人材の活用

- ・ フィリピン人介護実習生の紹介ルートに則り、マニラでの日本語教育の実情視察を踏まえ、2名の確保に向け受け入れ準備を進めた。

③ 業務限定パート職員の採用

- ・ 雇用需給のマッチングを踏まえ、子育て世代対象に入浴パート、元気な高齢者対象に介護アシスタントの確保を進めた。

④ ICT・ロボット導入の推進

- ・ 事務の効率化と業務の省力化のため、最先端の介護支援システム（ほのぼのNEXT：45ライセンス）を導入し、併せて、介護現場には、持ち運びできるタブレット（ケアパレット：18ライセンス）を配備した。
- ・ 人事考課を職員育成に繋げるため、人事評価専用システム（㈱エイデル研究所）を導入した。
- ・ 2年前から順次導入している赤外線見守りロボット（シルエット見守りセンサー）を新たに5台導入し、現在、14台稼働している。

⑤ キャリア段位制度への手当制度創設

- ・ 介護福祉士の質向上を奨励するため、尺度となるキャリア段位制度の段位取得者に対し、段位に応じた手当制度を創設した。
- ・ なお、1名の職員が現時点の最高段位レベル4を取得した。

⑦ 加算及び介護報酬以外の収入財源の確保

- ・ 新たな介護報酬加算の確保に努めるとともに、補助金、助成金等、介護報酬以外の収入財源の確保を積極的に図った。

（ア）新たに取得した介護報酬加算

・ 排泄支援加算（新設）	9万円
・ 褥瘡マネジメント加算（新設）	2万円
・ 生活機能向上連携加算（新設）	11万円

- ・ 経口維持加算 12万円
 - ・ 個別機能訓練加算 248万円
- (計 282万円)

(イ) 本館改修に伴う補助金

- ・ 環境省二酸化炭素排出抑制対策事業補助金 2,500万円
 - ・ 垂井町地域密着型サービス等整備助成事業等補助金 1,130万円
 - ・ 既存特養等のユニット化改修等支援事業補助金 509万円
- (計 4,139万円)

(ウ) その他の補助金、助成金

- ・ 岐阜県介護人材確保対策事業補助金 315万円
 - ・ 岐阜県介護ロボット導入促進事業補助金 50万円
 - ・ 結核予防補助金 10万円
 - ・ トライアル雇用助成金 8万円
 - ・ その他 28万円
- (計 411万円)

⑧ 経費の削減

- ・ 電気料金を新電力に切り替えるなど事業費増の抑制に努め、また、ノー残業デイ（毎月第4水曜日）の導入などにより事務費の抑制を図った。

契約項目	業者名	選定方法	年間契約金額(税込)
電気需給	日立造船(株)	入札(3社) ※1社辞退	18,166,700円 (税抜落札金額)
浄化槽 維持管理	(株)光商会	随意契約	2,404,080円
空調設備等 保守管理	日本空調 サービス(株)	随意契約	3,025,490円
エレベーター 保守管理	オリックス・ファ シリティーズ(株)	見積比較 (4社)	月額 84,240円
本館設備及びC 棟デイ改修実施 設計、監理業務	(株)空建築事務所	随意契約	7,776,000 円
本館設備及びC 棟デイ改修工事	岐建(株)	入札(5社)	214,326,000 円

(3) 将来を捉えた計画的経営の推進

① 本館大規模改修の実施

- ・ 老朽化した本館のインフラ機能（空調、給湯、照明等）の抜本的改善により、入居者の生活及び職員執務環境の快適化を図るとともに、年間310万円相当のランニングコスト削減を見込み、環境省の省CO2関連補助制度を活用し改修工事を実施した。
- ・ なお、本館の改修に併せ、以下の工事を実施した。
- ・ 多床室（16床）の生活環境改善の目的で、補助制度を活用し、プライベート仕切りをカーテンから障子型に変更
- ・ C棟のデイサービス転換に伴う実習生の宿泊機能整備
- ・ C棟のデイサービス転換に伴う会議室機能整備
- ・ 本館夜勤職員の専用休憩室整備
- ・ 本館個室化で不要となった霊安室の会議室機能への転換

② 在宅介護サービス機能の強化

- ・ 地域の認知症介護需要の高まりに応え法人の在宅サービス機能の拡充を図るため、遊休化したC棟を改築し認知症対応型デイサービスの開設を進めた。
- ・ 居宅介護支援事業所の職員を増やし、特定事業所加算が確保できる体制とした。

2 ご利用者・ご家族支援の充実強化

(1) ご利用者の状況

ア 施設稼働率

単位（％）

区分	H30年度	H29年度
本館	96.7	96.5
別館	98.1	95.3
ほのぼのいぶき	94.0	94.2
計	97.1	95.6

イ 介護度区分状況

【本館】

H31. 3. 31

H30. 3. 31

	男性	女性	計	比率 (%)	男性	女性	計	比率 (%)
要介護 2	1	1	2	3.3	0	1	1	1.8
要介護 3	5	8	13	21.7	5	8	13	23.6
要介護 4	5	18	23	38.3	5	15	20	36.4
要介護 5	5	17	22	36.7	3	18	21	38.2
計	16	44	60	100.0	13	42	55	100.0
介護度平均	3.8	4.2	4.1		3.9	4.2	4.1	

【別館】

H31. 3. 31

H30. 3. 31

	男性	女性	計	比率 (%)	男性	女性	計	比率 (%)
要介護 1	0	1	1	1.2	0	0	0	0
要介護 2	0	5	5	6.3	0	6	6	7.9
要介護 3	5	17	22	27.5	4	18	22	28.9
要介護 4	12	20	32	40.0	9	16	25	32.9
要介護 5	6	14	20	25.0	9	14	23	30.3
計	23	57	80	100.0	22	54	76	100.0
介護度平均	4.0	3.7	3.8		4.2	3.7	3.9	

【ほのぼのいぶき】

H31. 3. 31

H30. 3. 31

	男性	女性	計	比率 (%)	男性	女性	計	比率 (%)
要介護 3	1	6	7	36.8	0	3	3	17.6
要介護 4	2	4	6	31.6	3	4	7	41.2
要介護 5	1	5	6	31.6	1	6	7	41.2
計	4	15	19	100.0	4	13	17	100.0
介護度平均	4.0	3.9	4.0		4.2	4.2	4.2	

ウ 年齢別入所者状況

(単位：人)

		～64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100 歳～	計
男	性	1	1	3	8	5	9	13	1	1	42
女	性	1	2	7	9	19	33	30	12	3	116
計		2	3	10	17	24	42	43	13	4	158
比 率 %	H30	1.3	1.9	6.3	10.8	15.2	26.6	27.2	8.2	2.5	100.0
	H29	2.0	2.7	6.8	8.1	18.9	23.0	26.4	9.4	2.7	100.0
平 均	H30	男性 84歳		女性 86.8歳		全体 86歳		最高 104歳	最低 60歳		
	H29	男性 83.3歳		女性 86.5歳		全体 85.6歳		最高 103歳	最低 59歳		

(2) 専門的な質の高いサービス提供

① ユニット型特養ケアの質の向上

- 別館のユニットケア型介護手法の質を高めるため、外部講師による研修、先進施設への職員視察を繰り返し実施した。さらに、プロジェクトを結成し、ユニットケア指針や24時間ケアシートの整備、ユニットの設え環境の整備を図り、家庭的雰囲気造りに努めた。

施設名	月日	参加者数
花友にしこうじ(社福 市原寮：京都市)	6月14日	7人
高秀苑(社福 久義会：八尾市)	7月2日	6人
ジャルダン・リラ(社福 順明会：豊川市)	8月30日	6人
美里ヒルズ(社福 弘仁会：津市)	12月17日	6人

② 自立支援、心身機能の維持、向上

- 機能訓練指導員(柔道整復師)2名を新規に採用し機能訓練体制を整備し、特養におけるリハビリ機能向上を体系的に進めた。
- また、関ヶ原診療所作業療法士の外部協力により、デイサービスに機能訓練手法を導入した。

	機能訓練加算 対象者数(人)	機能訓練加算額 合計(円)	生活機能向上加 算対象者数(人)	生活機能向上加算 額合計(円)
本館	60	653,520	0	0
別館	64	1,829,520	0	0
ほのぼの	0	0	17	108,000

- ・ 経口維持加算、排泄支援加算、褥瘡マネジメント加算等の新たに制度化された加算の取得に積極的に取り組んだ。

ア 経口移行・経口維持システムの強化

	経口維持加算 対象者数 (人)	経口維持 加算額合計 (円)
本 館	5	60,000
別 館	5	60,000
ほのぼのいぶき	1	8,000

イ 排泄にかかる要介護状態の軽減

	排泄支援加算 対象者数 (人)	排泄支援 加算額合計 (円)
本 館	12	40,000
別 館	12	43,000
ほのぼのいぶき	4	12,000

ウ 介護職員による痰吸引実施体制の整備

区 分	平成 30 年度 取得者(名)	累積取得者 (名)
介護職員等によるたん吸引研修 (50 時間)	7	46
施設内研修による介護職員等によるたん吸引研修 (14 時間講義)		20

エ 褥瘡発生の予防・改善

	褥瘡マネジメント 加算対象者数 (人)	褥瘡マネジメント 加算額合計 (円)
本 館	60	10,500
別 館	79	14,300
ほのぼのいぶき	20	3,400

オ 口腔衛生管理の充実

	口腔衛生管理加算 対象者数 (人)	口腔衛生管理 加算額合計 (円)
本 館	19	158,400
別 館	29	202,500
ほのぼのいぶき	10	75,600

③ 「夢の実現」ケアの推進

- ご入居者が人生で叶えたい夢や希望を受けとめ、夢の実現に向け寄り添う実践活動を各ユニット単位で実施し、その成果を内部研修（平成 31 年 1 月）で発表を行うとともに、地域住民参加の認知症セミナー（平成 31 年 2 月）で実践発表を行った。

④ 介護サービス第三者評価の受審

- 外部有識者の客観的チェックを受け、サービス提供の質を確認し向上を図るため、特養ほのぼのいぶきを対象に、介護サービス第三者評価を受審した。

受審日	実施内容	実施機関
平成 30 年 12 月 7 日	地域密着型特養 ほのぼのいぶき	特定非営利法人 岐阜後見センター

（３）快適な日常生活の拡充

① 余暇活動の充実

ア 余暇活動実施状況

行事名	月日等	延べ利用者 参加人数※	場 所
日帰り バスツアー	5 月 21 日	8	アクアトト岐阜
	6 月 4 日	4	アクアトト岐阜
	11 月 19 日	5	なばなの里
	11 月 20 日	4	なばなの里
ピアガーデン	7 月 20 日	33	別館
盆踊り	8 月 25 日	57 (250)	本館
ボン・マルシェ	8 月 25 日	2 (250)	別館
運動会	10 月 17 日	49	本館
かくし芸大会	11 月 7 日	33	本館
花餅づくり	12 月 19 日	23	本館
	12 月 15 日	14	別館
喫茶店	8 回	365	本館

※ ()書きは、地域住民等の参加者数

イ 地域行事への積極的参加

行事名	月 日	参加人数 (人)
垂井祭り	5月3日	14
	5月4日	4
運動会見学	10月14日	3

②食事提供の充実

イベント名	回 数	備 考
実演料理	8回	天ぷら
焼き芋	24回	本館9回・別館15回

③身体拘束等の適正化の推進

本館、別館において委員会を設置して定期的を開催し、身体拘束等の適正化のための指針の整備や、対策を検討し、身体拘束等の適正化を推進した。(委員会：年3回、研修：年2回)

④家族会の活動

年月日	行事名	内 容
平成30年6月23日	総 会	・29年度の事業、会計報告 ・30年度の事業計画、予算案 ・学習療法について(事例発表)
平成30年9月16日	食事会	別館(参加者45名)
平成30年9月17日	食事会	本館(参加者10名)
平成31年3月26日	役員会	・30年度の事業、会計報告 ・31年度の事業計画

(4) 認知症ケアの充実

① 学習療法の推進

- ・ これまで全入居者を対象としていた実践活動について、学習意欲、学習効果期待度の基準で優先対象者を絞り、効果の見える化を進めた。
- ・ 福島で開催した全国シンポジウムに、実践報告者1名及びポスター発表者1名を派遣した。

項 目	内 容
学習実践者数	31名
「第4回 学習療法 実践研究 シンポジウム in ふくしま」で発表	<ul style="list-style-type: none"> 実践発表「できることが増えた！笑顔が戻った！」 ポスター発表

② 認知症介護実践リーダーの養成

- 認知症ケアの重要性が増す中で、認知症介護実践者等の養成に努めた。

研 修 名	平成30年度 受講者数(人)	受講者数 累積(人)
認知症介護実践者研修修了者	6	34
認知症介護実践者リーダー研修修了者	1	13

(5) ご利用者の要望に沿った看取り介護の充実

看取り介護の状況

事業所	看取り介護件数	看取り介護加算額(円)
本館	10	49,296
別館	8	37,288
ほのぼのいぶき	6	22,926

(6) 安心安全な施設づくり

① 事故への対策

- 県の改正指針に基づき、重大事故発生時への迅速な対応体制（24時間以内の行政報告）を整備した。
- なお、H30年度に発生した重大事故（1か月以上の入院事故）は、7件であった。

区 分	内 容	平成30年度	平成29年度	平成28年度
行政報告事項 (通院・入院)	骨折 皮膚剥離	7 (骨折3)	8 (骨折4)	7 (骨折4)
その他 不適合案件	転倒及び転落	199	149	171
	服薬管理	28	35	22

② リスクマネージャーの養成

- ・ リスク発生時の迅速対応、リスク発生防止のマネジメントを担う職員を養成する為、1名をリスクマネージャー資格取得研修に派遣した。

③ 災害への対策

- ・ 実施の基準に従い、年間3回（水害訓練1回、火災訓練2回）の防災訓練を実施した。さらに、本館大規模改修に際しての計画停電を活用し、長時間停電発生時の対応訓練を実施した。

実施日	場所	概要
平成30年7月26日	いぶき苑 本館・別館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水害時避難誘導訓練 本館、ほのぼの利用者役を別館へ垂直に避難誘導
平成30年10月4日	いぶき苑 別館	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1部 <ul style="list-style-type: none"> ・ 早朝の火災を想定した非常通報・初期消火及び避難訓練 ■ 第2部 <ul style="list-style-type: none"> ・ BCP（事業継続計画）に基づき、深夜1時に地震が発生し、6時間後の対応訓練（早朝7時想定） 「職員参集」 「災害対策本部設置」 「被害状況確認」 「応急処置」 「炊き出し訓練」
平成31年3月7日	いぶき苑 本館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火災を想定した「非常通報・初期消火」及び「避難訓練」 ・ 不破消防組合東消防署によるAED訓練
平成31年3月20日	いぶき苑 本館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本館改修工事に伴う停電を活用した実践的訓練 ・ 停電時のエアマットへの対処 ・ 停電時の電動ベッドへの対処（ポータブル発電機を利用） ・ 停電時のトイレの使い方 ・ 停電時の食事提供への対応

④ 感染症への対策

- 全入居者及び全職員を対象にインフルエンザの予防接種を実施し、空間除菌剤（マルククリーンピュア）による感染防止対策をあらかじめ実施した。
- しかし、H30年度は累積で利用者4名、職員10名がインフルエンザに罹患したため、発生の都度、タミフル予防投与を含め感染の拡大防止のため徹底して対策を図った。

ア 予防対策

事業所等	インフルエンザ 予防接種	発生時 予防投与	肺炎球菌 ワクチン	検便
本館	55	60	7	
別館	77	40	0	
ほのぼのいぶき	18	19	0	
職員	128	72	0	106

イ インフルエンザ罹患状況 (単位：人)

区分	平成30年度	平成29年度
本館	3	0
別館	1	1
ほのぼのいぶき	0	0
職員	10	6

⑤ご利用者の苦情等への対応

相談内容	件数	開催日等
苦情対応	9件	<ul style="list-style-type: none"> • 平成30年12月14日 「施設内苦情解決委員会」開催 • 平成30年12月19日 「第三者苦情解決委員会」報告

(5)在宅系介護サービスの拡充

① ぽかぽかいぶきの活動

ア 利用状況

区 分	平成30年度	平成29年度
実利用者数（男性）	10人	3人
実利用者数（女性）	38人	23人
年間稼働率	97.4%	96.9%

イ 機能の維持、改善

生活機能向上連携加算対象者	生活機能向上連携加算額合計
12人	118,000円

ウ 運営推進会議の開催

回	開催年月日	内 容
第5回	平成30年 9月14日	<ul style="list-style-type: none"> 運営状況（活動報告等） 生活機能向上連携加算について
第6回	平成31年 3月13日	<ul style="list-style-type: none"> 運営状況（活動報告等） 生活機能向上連携加算について

エ 施設の地域開放

提供場所	延べ利用回数	延べ利用団体数
ぽかぽかいぶき	12	1

② 認知症対応型デイサービスの新設

- 遊休施設となっていた本館C棟を、認知症対応型のデイサービスはつらついぶきとして活用するため、本館改修に併せ改修工事を実施した。

工事期間	工 事 費	補助金額
H30.11.19～H31.3.26	30,706,000円	11,300,000円

③ 短期入所生活介護の開設

- 特養ほのぼのいぶきの未使用室（1室）を活用しショートステイを開設した。

利用者数	延べ利用日数	介護保険請求額
6人	180日	1,322,830円

3 地域福祉の拠点となる施設の役割発揮

(1) 地域共生社会への取り組み

① おもちゃ図書館の開設

- ・ 全国おもちゃ図書館財団から寄贈されたおもちゃを活用し、毎月1回おもちゃ図書館を開催し、参加した幼児や親等とご入居者との交流を図った。

開催日	参加者		おやつ	催し物
	子供・親	ボランティア		
4月27日	33	2	クッキー	音楽遊び
5月29日	25	0	ポップコーン	紙芝居
6月24日	47	2	クッキー	紙芝居 施術
7月29日	29	0	クッキー	紙芝居・折り紙・施術
10月28日	64	7	ポップクッキー	ハロウィンパーティ 知育講座・メダカ掬い
11月25日	27	13	蒸しパン	不破高校コラボ企画 プラパンづくり
12月23日	61	7	ドーナツ作り	ツリー作り
1月27日	44	2	蒸しパン	
2月24日	43	2	蒸しパン	
3月31日	48	2	蒸しパン	
	421	37		

② 災害時要支援者への対応

・福祉避難所の協定締結

大災害発生時に要援護者を引き受け支援する、福祉避難所の指定を受ける協定を垂井町と締結した。

・DCAT研修の受講

研修内容	H30年度	H29年度	H28年度
ビギナー研修	4	4	4
ミドル研修	0	4	3
ミドル研修実地訓練	0	3	2
アドバンス研修	0	3	0

(2) 地域の高齢者を支える仕組みづくり

① 脳の健康教室の開講

- ・ 学習療法の手法を地域の認知症予防に活用する、脳の健康教室を開催（3年連続）した。

	H30年度	H29年度
開催期間	6月19日～12月4日	6月20日～12月12日
受講者数	8人 (男性7人・女性1人)	9人 (男性6人・女性3人)
サポーター数	7人	6人
交流会	鍋パーティー	絵合わせ・脳トレゲーム 鍋パーティー

② 認知症カフェの実施

- ・ H29年度に自主的に開催した認知症カフェについて、垂井町の要請に応じ、H30年度は町の委託事業として実施した。

開催日	活動内容	提供菓子	参加人数
4月25日	脳トレ体操	ブラウニー	48人
5月30日	カラオケ	駄菓子	57人
6月27日	七夕飾り	白桃ケーキ	56人
7月25日	口腔ケア講演	フルーツあんみつ	45人
8月29日	盆踊り	どら焼き	29人
9月26日	脳トレ指体操	おはぎ	63人
10月31日	健康体操	パウンドケーキ	26人
11月28日	口腔体操	焼き芋	42人
12月26日	体操・カラオケ	蒸しパン	33人
1月30日	予防講座	焼き芋	29人
2月27日	健康セミナー	チョコパイ雛あられ	37人
3月27日	カラオケ	牡丹餅	49人
年間合計			514人

③ 居宅支援事業所の拡充

- ・ 居宅支援機能の強化のため、介護支援専門員を1名増員し（3名体制）、特定事業所Ⅲの加算を取得した。

業 務 内 容	年間延べ件数	
	H30年度	H29年度
介護保険法に基づいた居宅介護支援	797	634
自治体条例に基づいた介護予防支援	158	97
垂井町委託事業（認定調査）	101	105
介護支援専門員実務研修見学実習生受入	1	0

④ 認知症セミナーの実施

- ・ 県の補助金を活用し、認知症や介護事業への地域の理解を深める目的で、地域住民等の参加を募り、VRによる認知症体験など3回シリーズのセミナーを実施した。

開催日	演 題	参加者数
第1回 H30.12.22	V.R 認知症体験会	95人
第2回 H31. 1.19	認知症を知ろう	62人
第3回 H31. 2.23	認知症をもっと知ろう	55人

⑤生きがいに貢献する活動の場の提供

ア ボランティア活動回数

活動内容	本館		別館 (含ほのほのいぶき)		デイサービス ほかほかいぶき	
	延回数 (回)	延人数 (人)	延回数 (回)	延人数 (人)	延回数 (回)	延人数 (人)
ワリイ-ソソ	30	73	33	77	67	90
包布交換	11	56	10	48	—	—
行事介助	9	56	6	40	—	—
園芸福祉	1	4	6	27	6	24
演芸	9	48	15	60	2	8
園芸	9	84	0	0	—	—
写真提供	2	5	1	1	—	—
整髪	7	7	0	0	—	—
合計	78	333	71	253	75	122

イ 法人全体開催合計

項目 \ 年度	H30年度	H29年度
活動回数	223回	227回
活動延べ人数	707人	754人

(3) 地域の担い手づくり

① 出前講座の実施

- ・ 県介護福祉士会の要請に応じ職員を講師として派遣し、ICT・介護ロボットの導入実践報告を県内3か所で行った。

開催日	内容
11月22日・12月5日 12月12日	ICT・介護ロボット等活用推進支援 セミナー

② 福祉教育への貢献

- ・ 中部学院大学の要請を受け、大学主催のICT・ロボットセミナーにおいて、職員が発表を行った。
- ・ 不破中学校・不破高校の依頼を受け、産業教育の一環で職員が生徒に対し授業を行った。
- ・ 町社会福祉協議会との共催で、北中学校生徒を招き、職場体験学習（ワークキャンプ）を行った。

ア 実習等受入

年度等 区分	H30年度		H29年度	
	延べ人数	受入学校数	延べ人数	受入学校数
介護実習	8人	・桜高校 ・中部学院短大	9人	・桜高校 ・中部学院短大
管理栄養士 臨地実習	2人	・東海学院大学	10人	・東海学院大学 ・岐阜女子大学
介護体験	13人	・岐阜県社協 ・不破高校 ・立命館大学 ・佛教大学 ・不破中学校	20人	・不破高校 ・北中学校 ・介護労働安定 センター ・岐阜県社協
ワークキャンプ	11人	・北中学校	8人	・北中学校

イ 講座講師

開催日	講座名	出向き先
9月18日	法人の地域貢献活動	不破高校
11月10日	中学生への職業講話 2018	不破中学校
11月18日	第19回人間福祉学会 2018 実践発表	中部学院大学

③ 福祉活動への参加支援

ボランティアの集い

項目	内容
開催日	平成30年7月10日
参加人数	23人
研修内容	講師：特定非営利活動法人 ぎふ NPO センター ボランティアコーディネーター 籠橋 文子氏 演題及び活動：「自発性パラドックスについて」

④ 地域ブランドづくり報奨制度の創設

- 地域貢献、広報活動など法人のブランド向上のため奨励制度を設け、貢献した職員を報奨した。

項目	件数・人数	金額(円)
改善提案	24件	30,000
認知症デイ名称募集	11人	20,000
設備愛称募集	6人	7,500
ブランド貢献	11人・ユニット	40,000
ユニフォームデザイン	4人	11,000

(4) 地域の中の法人としての活動

① 地域への施設の積極的な開放

場所	項目	H30年度	H29年度
別館地域交流 スペース	年間利用回数	62	73
	利用団体数	7	5
ほかほかいぶき	年間利用回数	11	12

主な利用団体：レッツ垂井、垂井町、岐阜県身体障害者不破支部
垂井分会、ぽかぽか倶楽部

② 地域行事への積極的な参画・協力

- 垂井ピアに出展し、地域支援会議メンバーによる手芸体験や学習療法体験など地域住民へのPR活動を行った。

開催日	実施内容	ボランティア
H30年10月 20・21日	<ul style="list-style-type: none"> 学習療法 畳のへりを使った小物づくり ポップコーンの提供 湯茶提供（休憩所） フェースペイント 介護食試食と栄養相談 	登録ボランティア 10/20 6名 10/21 5名

③ 地域住民と交流できる施設行事の実施

(A) ボン・マルシェ and 盆踊り

恒例の盆踊りに加え、県補助金を活用し新たにボン・マルシェを実施し、地域住民250名の参加を得て、いぶき苑の事業を職種別にアピールした。

開催日	事業名	概要
H30年8月23日	ボン・マルシェ	各部署が専門業務を紹介 介護：ロボットの展示・試乗 医務：健康相談 栄養：介護食試食 栄養相談 相談：学習療法体験 事務：福祉車両展示
	盆踊り	ポスターによる広報 夜間に開催 飲食物の無料提供 ボランティアによる生演奏

(B) ひな人形見学会の開催

開催期間	飾り数	対応
H31年2月20日～ H31年3月19日	6組	登録ボランティア6人による飾り付け・片づけを依頼する

(C) 親子クッキングの講師

	第1回	第2回
開催日	H30年7月20日	H30年12月21日
開催場所	宮代地区まちづくりセンター	
参加人数	20人	17人
関与した職員	2人	3人

④ 在宅介護支援センターの推進（単位：件）

年度	H30年度	H29年度	H28年度
実績	297	288	293

4 職員が生きがいと働きがいのある職場づくり

(1) 人材の確保と育成

① 人材確保に向けた環境整備と効果的な広報宣伝の実施

- 平成30年度採用職員数（同年度退職者を除く）

職種	正職員	パート	計
介護職員	3	9	12
看護職員	1	4	5
機能訓練指導員	2	0	2
その他職種	4	2	6
計	10	15	25

- 業務分担を見直して、入浴専門パートを4名採用するとともに、介護アシスタント職を創設した。

- ・ パソコン版ホームページを改良するとともに、若者を対象としたスマートフォン版のリクルート専用ホームページを開設した。
- ・ 新聞広告や新聞折り込みチラシによる募集を複数回実施した。
- ・ 地元スーパーマーケットの一角を借り受けてよろず相談会を開催し、職員募集、入居案内等の相談に応じた。
- ・ 職員の紹介による職員募集を奨励した。(リクルート作戦)

活動内容	備考
就職活動情報サイトマイナビ登録	
折り込み広告	3件
地域情報誌「Wao! Club」掲載	3件
ホームページの更新	
スマートフォン向けホームページ作成	
よろず相談会開催(地元スーパーマーケット)	8回

応募区分及び人数		採用(うち早期退職)	不採用
正職員	3	3 (0)	0
非正職員	6	4 (1)	2
計	9	7 (1)	2

- ・ 中高生16名のインターンシップ受け入れを行った。

学校名	人数(人)
大垣養老高等学校	6
不破高等学校	5
不破中学校	5

- ・ 本館改修に併せ介護実習生向け宿泊室を整備した。
- ・ 外国人技能実習生の受け入れのためマニラを訪れ、日本語学校等の視察、学生に向けたプレゼンテーションを行った。

② 人材の育成

- 外部研修を積極的に実施し、リーダー候補者の養成を行った。

実施月	回数	参加者	主な研修
5月	1	75人	接遇マナーに関する研修「アンガーマネジメント」(中北薬品(株))
6月	2	115人	「食中毒と細菌感染について」(株明治)他
7月	1	26人	メンタルヘルス研修「笑いヨガ」
8月	3	51人	対戦型災害想定ゲーム「KIZUKI」研修(NPO 住まいる研究会)
9月	3	27人	人事育成管理システム研修(株エイデル研究所)
10月	2	4人	介護職員スキルアップ研修(リーダー育成)【2名】(NPO ひだまり創)
11月	4	69人	ユニットケア研修(日本ユニットケア推進センター)
12月	2	4人	介護職員スキルアップ研修(リーダー育成)【2名】(NPO ひだまり創)
1月	2	4人	介護職員スキルアップ研修(リーダー育成)【2名】(NPO ひだまり創)
2月	2	17人	キャリア形成研修(介護労働安定センター)
3月	2	16人	キャリア形成研修(介護労働安定センター)

- 資格取得の奨励を進め、ケアマネージャー、リスクマネージャー、介護プロフェッショナルキャリア段位レベル4の資格を取得した。
- 積極的な資格取得の奨励により、専門家の育成を行った。

資格	H30年度取得者	累計
特定行為業務従事者認定者 ※	7	46
介護福祉士	3	74
介護支援専門員実務研修受講資格	1	21

※ 介護職員で、一定の研修を受けた「たん吸引」等の業務が行えると認定されたもの

- ・効果的な人材育成プログラム
 - (1) 対象新規採用（高校卒）育成プログラム実施者 2人
 - (2) 新規採用者・中途採用者向けプリセプター 9人

（２）職員のモチベーション保持

① 職員の処遇改善

- ・ 土日勤務者の賃金優遇などパート職員の処遇改善を行った。
- ・ 年末年始出勤者に手当（1日千円）を支給した。
- ・ 介護プロフェッショナルキャリア段位認定者に資格手当を支給

② モチベーション保持への対策

- ・ ICTを活用した人事考課制度を導入し、評価の公平性と、職員育成への活用性を高めた。
- ・ 人事考課のパート職員への拡大を図り、パート職員のモチベーション向上を図った。
- ・ 職員表彰制度の整理（再経）

項目	件数・人数	金額（円）
改善提案	24件	30,000
認知症デイ名称募集	11人	20,000
設備愛称募集	6人	7,500
ブランド貢献	11人・ユニット	40,000
ユニフォームデザイン	4人	11,000

（３）働きやすい職場環境づくり

① 業務の省力化

- ・ 学習療法の実施対象を、学習意欲等の観点から成果の期待できる方にしぼり、成果の効率化を進めた。また、介護以外の職員が学習療法すおしえんする体制を確立した。
- ・ 介護ソフトの切り替えに伴い、持ち運び可能なタブレット端末、ボイス入力システム、Bluetooth対応の体温計、血圧計などを採用し、業務の効率化を進めた。

② 負担軽減の推進

- ・ 見守りセンサー5台を追加導入し、夜勤体制の負担軽減を進めた。

名称	台数	平成30年度購入	累計
シルエット見守りセンサー		5	11
アウルサイト見守りセンサー		0	3

- ・ 腰痛予防、軽減のためラクニエ（腰部サポートウェア）等を導入した。

機器・用具名	数量	金額
移乗ボード	1台	21,920円
腰部サポートウェア	3着	53,460円

- ・ カイロプラクティック施術を苑内で実施（毎週1回程度）し、職員の身体疲労の軽減に活用した。

補助年月	補助人数	補助年月	補助人数
平成30年 4月	13	平成30年10月	21
5月	26	11月	16
6月	15	12月	11
7月	18	平成31年 1月	13
8月	26	2月	14
9月	20	3月	12
合計			205

補助額 102,500円

③ 働きやすい環境整備

- ・ 本館C棟に夜勤職員の休憩室を設置し、休憩室の隣に設置した実習生用宿泊所を職員の休憩用にも利用。

(4) ライフスタイルを保てる職場づくり

① 休暇制度の定着化

- ・ リフレッシュ休暇の定着により、有給休暇取得率は69.3%

(H29年度66.0%)となった。なお、H31年度から義務化される年間5日以上の有給取得者率は91.6%(未取得者9名)であった

○有給休暇の取得状況

取得率等 職員区分	対象人数(人)		平均取得率(%)		平均取得日数(日)	
	H30	H29	H30	H29	H30	H29
全職員	148	133	69.3	66.0	10.4	9.5
正職員	90	86	63.0	60.1	10.7	8.58
パート職員	58	47	83.7	76.5	9.9	11.21

○長期(5日間)のリフレッシュ休暇制度の取得状況

年度	取得率	全体取得率	うち介護職員の取得率
平成29年度		86.9% (73名/84名中)	92.2% (59名/64名中)
平成30年度		94.4% (85名/90名中)	100% (60名/60名中)

② 特別休暇の浸透

- ・ 新たに制度化した、教育訓練のための特別休暇を1名が取得した。

③ ワークライフバランスの普及

- ・ 育児介護両立支援プログラムに沿い、1名の男性職員が育児休業を取得した。
- ・ 職員とその子供、孫(6組)が12月の職場参観に参加し、交流を図る中で親の仕事への理解を深めた。
- ・ ワークライフバランスと職場のルールへの理解を深める目的で、職員向けのポケットブックを制作した。
- ・ 職員の親睦を深めるサークル活動2件(ソフトバレー、スノーボード)への助成を行った。
- ・ サークル活動、イベント、職場での着用により、いぶき苑のPRや連帯感を深める目的でユニフォーム作成(100着)した。